2024 令和 6)年 1 月 9 日(火)　　国立市立国立第三中学校
Airplane
第二学年通信　第 15 号　　文責

激動するもの

激動するもの

高村　光太郎

そういう言葉で言えないものがあるのだ
そういう考方に乗らないものがあるのだ
そういう色で出せないものがあるのだ
そういう見方で描けないものがあるのだ
そういう道とはまるで違った道があるのだ
そういう図形にまるで嵌らない図形があるのだ
そういうものがこの空間に充満するのだ
そういうものが微塵の中にも激動するのだ
そういうものだけがいやでも己を動かすのだ
そういうものだけが
　この水引草に赤い点々をうつのだ

激動:はげしくゆれうごくこと、現代では、特に政治、社会などがはげしく変動することをいう。
充満:いっぱいになること、すきまなくみちること。
微塵:きわめて微細なもの、個体が砕けて非常にこまかくなること、また、そのさま。

私たちが『何かをしたい』と思うとき、その『何か』をはっきりと自覚することはなかなかできないものです。たとえば、『どこかへ行きたい』と強く願うとき。・・・もちろん、今まで旅をして楽しいことがあったから、とか、今忙しくて自分のしたいことができないから、とか、さまざまな理由はあるでしょう。けれど、そんな理由もなしに、ただ無性に(その行為・状態が前後の脈絡もなく激しく行われるさま、むやみやたら)そう思うことも時にはあります。

何の理由があるわけではなく、ただ無性にそれがしたい。それはもう理屈ではなく私たちの心の奥から、ふつふつと湧きあがる、いわば情念(心に湧き、つきまとう感じと思い)のようなもの。・・・そんなものに動かされることが、私たちの生活には、まま(時々)あります。

その情念のようなものを指して、光太郎は『激動するもの』と言っているのでしょう。

それは、形をもちません。今までの形式にもあてはまりません。色も着けられません。絵に描こうとしてもできません。・・・けれど、それが私たちを動かし行動を誘い、ひいて(結果的に)は世の中をも動かしていきます。

最後の一行の、言ってみれば名もない花である水引草の造形美にそういう『意志』を感じ取っている光太郎の心が見られます。

さあ、三学期が始まりました。三年生へ進級するための零学期でもあります。『令和』という新しい時代も六年目になります。新たな一年を作るべく、みなさんへ、光太郎の『心』を贈ります。

新学期当初の予定:1月17日(水)～24日(水)
1/9(火)～1/16(火)は、前号に掲載

・通知表及び校外学習参加確認票の未提出者は明 1 月 10 日(水)迄に提出すること。冬休みの宿題の未提出者は、各教科の担当の先生に申し出て指示を仰ぐこと。

日	曜	行　　事
１７	水	特別時程　部活動中止 1,～ 5.時間割通り
１８	木	普通時程　特別時間割 1,～ 5.授業
１９	金	普通時程　特別時間割 1,～ 4.授業　5,～ 6,総合
２２	月	普通時程　特別時間割 1,学活　2,～ 6,授業
２３	火	普通時程　スクールバディ 1 道徳　2,,～ 6,時間割通り
２４	水	普通時程　部活 16 時再登校 1,～ 5,時間割通り

鎌倉校外学習事前学習レポート生徒作品

【 **Airplane** No15 】2024(令和 6)年 1 月 9 日(火)